

# 看護補助者

## お仕事紹介



### 看護補助者とは

看護補助者は、看護助手と呼ばれることもあり、看護師の補助や患者の世話などを行う仕事です。食事介助や入浴介助などで患者と接する時間が長く、看護師が不足しがちな医療業界において非常に重要な役割を担っています

### 看護師との違い

看護師と看護補助者は、資格が必要か否かという点で異なります。

看護師になるためには、高等学校を卒業後専門学校や大学などの看護師養成校を修了し、国家試験に合格して資格を取得するルートが一般的です。

しかし、看護補助者は特別な資格は不要です。そのため、看護師は医療行為を行えますが、看護補助者は行えません。

看護補助者の仕事は患者の介助など、あくまでも補助的な仕事を中心です。

### 看護補助者になるには

看護補助者は資格を必要としない職種であり、求人条件さえ満たしていれば未経験でもすぐに看護助手として働くことができます。



## 看護補助者の勤務形態

看護補助者の勤務形態は、週休2日制で土日出勤があります。  
日勤の中にも早出や遅出などがあり、病院が独自に交代時間を決めています。

## 看護補助者の仕事内容

看護補助者の仕事は看護師の補助をすることです。具体的には、次のような業務があります。

### 🌀.患者さんのお世話

注射や採血などは看護師でないとできませんが、医療行為にあたらぬ患者の世話は主に看護補助者が行います。たとえば、患者の着替えを手伝ったり、検査に付き添ったりすることもあるでしょう。それ以外に、食事や排せつ、入浴の介助、車椅子移動の補助なども行います。



### 🌀.看護師の補助

看護補助者が行う看護師の補助業務は、医療器具の準備・片付け・洗浄・管理などが中心です。介助が必要な患者が医療行為を受けるときなど、人手が必要な場合に呼ばれることもあります。



### 🌀.環境整備・その他

病院の環境整備を行うことも看護助手の仕事です。  
主に病室のベッドやベッド周りの清掃、ゴミの回収などを行います。  
また、週に数回はベッドシーツの交換も行ないます。その他、検体の移送などの業務もあります。



## 病院内の配属先による仕事の違い

看護補助者が行う主な仕事内容について説明しました。  
しかし、病院内の配属先によって、仕事の種類は異なります。

### 🌀.外来

外来では、通院の患者への対応は看護師が行うことが多いため、看護補助者の主な仕事は処置室などの環境整備になります。

医療器具の洗浄・管理や、検体の移送などが中心です。



### 🌀.病棟

看護師の補助や入院している患者の世話などが主な仕事です。

具体的には、食事介助や入浴介助、医療器具の準備・片付けやベッドシーツの交換などを行います。



### 🌀.血液浄化センター

看護師の補助と医療器具の準備・片付けやベッドシーツの交換などを行います。



### 🌀.内視鏡室

内視鏡室での主な仕事は、看護師の補助と環境整備です。

内視鏡や内視鏡資材の洗浄・管理、検体の移送などを行います。



### 🌀.中央材料室

中央材料室では、医療器具の洗浄・管理が中心です。

治療や手術で使用した医療器具が集められるため、適切に洗浄し滅菌を行います。



## 看護補助者のやりがい



### 🌻.看護補助者は患者に寄り添う重要な仕事

看護補助者は医療行為を行えませんが、食事や入浴の介助を行ったり検査の際に案内をしたりと、患者さんに寄り添うことが多い仕事です。

病気などで不安を抱える患者の気持ちをくみとり、精神的なサポートを行う必要もあります。

そのため、患者さんやその家族から感謝の言葉をもらうことが多く、それがやりがいにつながるでしょう。

### 🌻.大きな責任を伴う仕事

看護補助者の仕事は、医師や看護師と同様に、人の命に関わります。医療器具の洗浄や患者の介助など丁寧かつミスなくこなさなければなりません。なかには部屋の清掃や備品の管理などの仕事もありますが、衛生的に医師や看護師がストレスなく医療行為を行えるように環境を整えることも重要な仕事です。大きな責任を伴う分、やりがいも大きい仕事だといえます。

## 看護補助者として働くメリットとは

看護補助者として病院などで勤務するメリットとしては、主に以下の3点があります。



### 🌻.無資格・未経験でも医療現場で働くことができる

国家資格や医療現場での勤務経験がない場合でも、看護補助者としてならすぐに医療（看護）チームの一員として働けます。医療現場で人の役に立ちたいと思っている人にとっては、応募しやすい職種だといえるでしょう。転職して看護補助者になったという人も多く、年齢に関係なく活躍できることが魅力です。

### 🌻.介護士や、看護師、准看護師などを目指す土台になる

看護補助者は無資格でも応募要件さえ満たせばすぐに働けるため、まずは看護補助者として医療現場に携わりながら看護師や准看護師の資格取得を目指すという人もいます。

また、看護補助者の仕事には食事・排せつの介助やベッドシーツの交換など、介護業界で役に立つものもあるため介護士の道も目指せます。



### 🌻.医療や介護などの幅広い知識を得ることができる

看護補助者は患者の世話や医療器具の管理が中心ですので、介護や医療に関する知識が自然と身につきます。特に、患者さんの介助は看護師ではなく看護補助者が中心となって行うため、介護に関する知識や技術は看護師以上に身につくでしょう。

# 看 護 補 助 者

に、仕事に選んだきっかけや

やりがい、苦勞などについて聞いてみました

46歳 補助者歴8年

医療事務の学校に通っていましたが  
家族の勧めもあり定時で帰宅できる  
仕事と思い選びました。  
患者さんから「ありがとう」と感謝の  
言葉をかけられることが励みになります。



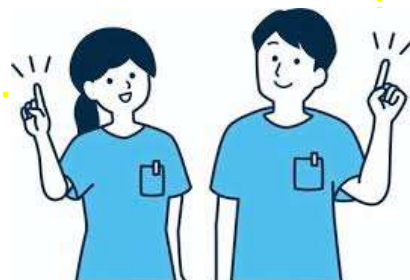
20~60歳代

## メリット

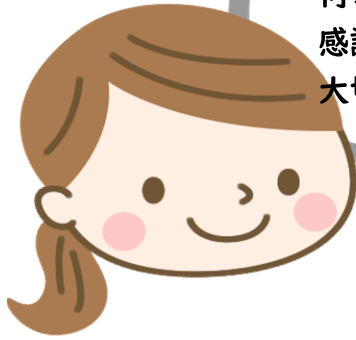
- ほかの病院は夜勤があると聞くけど、夜勤がない
- 早出は大変だけど、早く帰ることができるので歯科受診など自分の用事ができる
- 土日・祝日勤務があるので、平日に休める
- 勤務希望を出すことができる
- 遠方の家族のところに行くときなどは、相談すると連休をとることができる
- 患者さんから苦情も言われるが感謝もされる 感謝されるとやりがいにつながる

## デメリット

- 体力が必要
- 入浴介助は大変



53歳 補助者歴7年



患者さんの手助け、お手伝いが出来て「ありがとう」と言ってもらえるところにやりがいを感じます。何事も相手の立場になって考える感謝の気持ち、いつでも笑顔を大切にしています。

62歳 補助者歴13年

安定した職種をと思い、仕事の内容は知り合いから聞いたことがあったため看護補助者を選びました。

イメージしていたものの、実際は人を相手とする職業なので気を使うからだを使う仕事だと思います。

正社員であること、福利厚生が充実していることは魅力的です。

家庭の事情で辞めようかと悩んでいた時に、患者さんから「頑張りすぎないで」と言われ涙が出ました。このことがきっかけで辞めずに頑張ることができています。

年齢を重ね体力の衰えもありますが、コロナで看護師さんが汗だくに



50歳 補助者歴17年

患者さんに常に接しているので信頼関係を作りやすいです。

入浴介助が多い日は、限られた時間に終わらせるのは大変ですが、患者さんからの「ありがとう」や「大変ね」の言葉で救われることがあります。

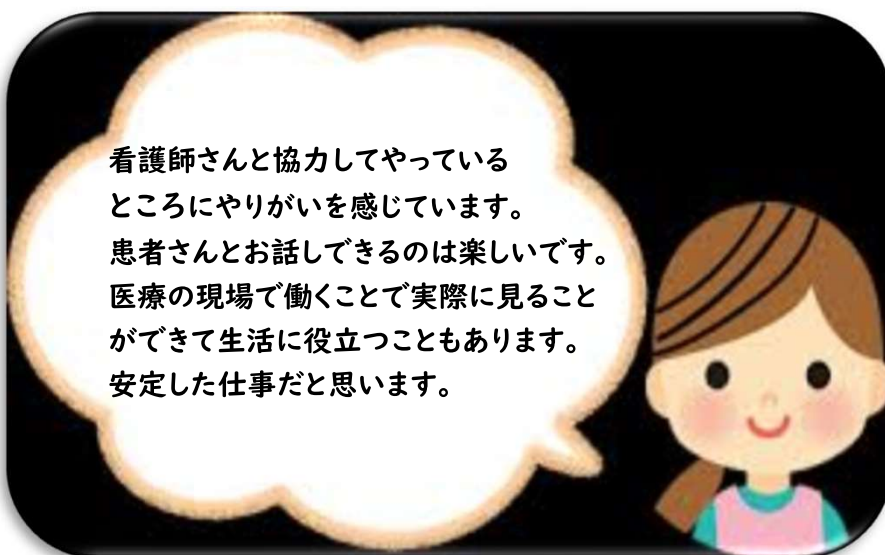


53歳 補助者歴7年



患者さんが元気になって自立した生活に戻られる様子を間近で見られるため、やりがいを感じる仕事です。「ありがとう」という言葉を聞いて「また頑張ろう」と思います。

50歳 補助者歴12年



看護師さんと協力してやっているところにやりがいを感じています。患者さんとお話できるのは楽しいです。医療の現場で働くことで実際に見ることができて生活に役立つこともあります。安定した仕事だと思います。

37歳 補助者歴19年



家族に看護師として勤務している病院で募集があり、看護師さんの力に少しでもなれたらと思い入職しました。患者さんや看護師さんから感謝された時看護師さんの力になったとき、業務上のアイデアが活かされた時にやりがいを感じています。

お仕事探しの参考になれば幸いです

看護補助者として、一緒にお仕事してみませんか